

## 平成22年3月期 第3四半期決算短信

平成22年2月12日

上場取引所 福

上場会社名 昭和鉄工株式会社

コード番号 5953 URL <http://www.showa.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 山本駿一

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 山根譲治

TEL 092-651-2931

四半期報告書提出予定日 平成22年2月15日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成22年3月期第3四半期の連結業績(平成21年4月1日～平成21年12月31日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年3月期第3四半期	7,659	△26.5	△551	—	△540	—	△1,502	—
21年3月期第3四半期	10,424	—	6	—	△12	—	△62	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年3月期第3四半期	△169.42	—
21年3月期第3四半期	△7.04	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年3月期第3四半期	14,328	2,894	20.2	326.92
21年3月期	16,046	4,335	27.0	488.78

(参考) 自己資本 22年3月期第3四半期 2,894百万円 21年3月期 4,335百万円

## 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年3月期	—	0.00	—	2.00	2.00
22年3月期	—	0.00	—	—	—
22年3月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 有

## 3. 平成22年3月期の連結業績予想(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	11,000	△20.4	△500	—	△480	—	△1,480	—	△166.89

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

#### 4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください]

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 無

② ①以外の変更 有

[(注)詳細は、4ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください]

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む) 22年3月期第3四半期 8,970,000株 21年3月期 8,970,000株

② 期末自己株式数 22年3月期第3四半期 117,007株 21年3月期 99,118株

③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間) 22年3月期第3四半期 8,868,065株 21年3月期第3四半期 8,876,164株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 期末配当予想につきましては、今年度の業績等を総合的に勘案した結果、無配とさせていただきます。

2. 平成21年11月11日に公表しました通期の連結業績予想は、本資料において修正しております。詳細につきましては、本日別途公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

3. 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記予想に関する事項は、添付資料の4ページ【定性的情報・財務諸表等】3. 連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

## ・ 定性的情報・財務諸表等

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、国内外の経済対策や中国・アジアの需要に牽引される形で輸出や生産に改善の動きが見られるなど景気減速に歯止めがかかりました。しかし、一昨年のリーマン・ショック以降「超低温経済」に突入した日本経済は設備投資や個人消費に自律的回復の糸口は見えず、さらに円高やデフレ圧力が加わるなど、予断を許さない状況で推移しました。

このような経営環境のもと当社グループは、前期末に落ち込んだ受注残の回復に向けて独自性をもった「業務用エコキュート」等の営業活動の強化や急激な受注減少に対応するために固定費の徹底した削減、生産効率化等で原価の低減を行ってまいりました。

しかしながら、経営環境は厳しく、当第3四半期連結累計期間における当社グループの売上高は、需要低迷の影響により7,659百万円(前年同期比△26.5%)となりました。

一方、損益面につきましても、固定経費の削減、原材料費の低減等が寄与したものの、売上の大幅な減少、操業度低下による直接原価の悪化が響き、営業損失は551百万円(前年同期は営業利益6百万円)、経常損失は540百万円(前年同期は経常損失12百万円)となりました。また、四半期純損失は、繰延税金資産を全額取崩したことにより1,502百万円(前年同期は四半期純損失62百万円)と大幅な赤字となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

## ①空調関連事業

最重点課題とした省エネ性・環境性が高い「業務用エコキュート」の拡販においては一定の成果を挙げましたが、「ファンコイルユニット」「エアハンドリングユニット」などの空調機器製品は、設備投資の延伸や市場縮小等の影響によって、当初の計画から更に減収となり、当事業の売上高は5,080百万円(前年同期比△12%)となりました。

## ②サーモデバイス事業

液晶パネルメーカーの設備投資循環、それに伴う価格競争激化の影響で売上は大幅に減少いたしました。このような影響を軽減するため、当社がFPDで培った技術を応用した太陽電池薄膜用アニール処理炉の初出荷ができましたが、開発試作的な段階にとどまり、当事業の売上高は1,135百万円(前年同期比△53%)になりました。

## ③その他の事業

これまで景気減速の影響が軽微であった鋳造製品が、一般産業機械関連の需要減少により、橋梁用防護柵と空調衛生設備工事の請負は、景気低迷と公共事業見直等の影響により、計画以上に低調に推移し、当事業の売上高は1,443百万円(前年同期比△35%)となりました。

## 2. 連結財政状態に関する定性的情報

## (1) 資産・負債・純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ1,717百万円減少し14,328百万円となりました。主な要因は、当第3四半期末において繰延税金資産を全額取り崩したことによる減少額926百万円、前連結会計年度末に比べ直近の売上が少ないことによる売上債権の減少額265百万円及び在庫圧縮によるたな卸資産の減少額348百万円であります。

負債については、前連結会計年度末に比べ276百万円減少し11,434百万円となりました。主な要因は、当第3四半期末は前連結会計年度末に比べ直近の取入高が少ないため仕入債務が233百万円減少したことなどによりです。

純資産については、前連結会計年度末に比べ1,441百万円減少し2,894百万円となりました。主な要因は、四半期純損失1,502百万円を計上したことによる減少と株価の上昇によるその他有価証券評価差額金の増加84百万円によるものです。

## (2) キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、37百万円の増加となりました。これは主に、減価償却費211百万円、売上債権の減少額292百万円、たな卸資産の減少額348百万円による増加と税金等調整前四半期純損失563百万円、仕入債務の減少額233百万円による減少であります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、87百万円の支出となりました。これは主に、有形及び無形固定資産の取得による支出72百万円による減少であります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、45百万円の支出となりました。これは主に、借入金の返済による減少額24百万円、配当金の支払額17百万円による減少であります。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ96百万円減少し2,212百万円となりました。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間の業績は厳しい結果となりました。今後の見通しにつきましては、当第3四半期連結累計期間の影響をそのまま引きずる形で、なお厳しい環境が続くものと思われます。

このような状況を踏まえ、連結業績予想について、本日別途公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」において、下記のとおり修正いたしました。

売上高	11,000百万円
営業損失	500百万円
経常損失	480百万円
当期純損失	1,480百万円

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、当第2四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間において、営業外収益の「その他」に含めて表示しておりました「受取手数料」は重要性が増したため、当第3四半期連結累計期間では区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間の営業外収益の「その他」に含まれる「受取手数料」は1百万円であります。

5. 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,212	2,308
受取手形及び売掛金	4,355	4,586
完成工事未収入金	21	57
商品及び製品	370	396
原材料	408	467
仕掛品	1,175	1,495
未成工事支出金	74	17
その他	74	209
貸倒引当金	△13	△15
流動資産合計	8,681	9,523
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,678	1,678
その他(純額)	1,779	1,940
有形固定資産合計	3,458	3,619
無形固定資産	84	85
投資その他の資産		
投資有価証券	1,466	1,412
その他	770	1,562
貸倒引当金	△132	△156
投資その他の資産合計	2,104	2,818
固定資産合計	5,647	6,523
資産合計	14,328	16,046
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,522	2,732
工事未払金	16	40
短期借入金	4,915	5,017
未払法人税等	14	39
その他	824	820
流動負債合計	8,292	8,650
固定負債		
長期借入金	1,085	1,007
退職給付引当金	1,543	1,516
その他	513	536
固定負債合計	3,141	3,059
負債合計	11,434	11,710

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,641	1,641
資本剰余金	1,994	1,994
利益剰余金	△355	1,164
自己株式	△28	△24
株主資本合計	3,252	4,776
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△354	△438
為替換算調整勘定	△3	△1
評価・換算差額等合計	△358	△440
純資産合計	2,894	4,335
負債純資産合計	14,328	16,046

(2) 【四半期連結損益計算書】  
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	10,424	7,659
売上原価	8,243	6,249
売上総利益	2,181	1,410
販売費及び一般管理費	2,174	1,961
営業利益又は営業損失(△)	6	△551
営業外収益		
受取利息	3	2
受取配当金	34	35
持分法による投資利益	21	17
受取手数料	—	13
助成金収入	—	26
その他	23	18
営業外収益合計	82	113
営業外費用		
支払利息	84	80
その他	17	22
営業外費用合計	102	102
経常損失(△)	△12	△540
特別利益		
投資有価証券売却益	2	—
特別利益合計	2	—
特別損失		
たな卸資産評価損	44	—
投資有価証券評価損	14	22
ゴルフ会員権評価損	0	—
特別損失合計	59	22
税金等調整前四半期純損失(△)	△70	△563
法人税、住民税及び事業税	46	20
法人税等調整額	△54	918
法人税等合計	△7	939
四半期純損失(△)	△62	△1,502

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純損失(△)	△70	△563
減価償却費	222	211
貸倒引当金の増減額(△は減少)	82	△26
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△0	27
受取利息及び受取配当金	△37	△37
支払利息	84	80
持分法による投資損益(△は益)	△21	△17
投資有価証券売却損益(△は益)	△2	—
投資有価証券評価損益(△は益)	14	22
売上債権の増減額(△は増加)	152	292
たな卸資産の増減額(△は増加)	△868	348
仕入債務の増減額(△は減少)	△222	△233
その他の資産・負債の増減額	△75	△15
その他	11	3
小計	△728	91
利息及び配当金の受取額	37	52
利息の支払額	△85	△77
法人税等の支払額	△44	△29
営業活動によるキャッシュ・フロー	△821	37
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△174	△72
投資有価証券の取得による支出	△51	△0
投資有価証券の売却による収入	9	0
その他	△20	△14
投資活動によるキャッシュ・フロー	△236	△87
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△2	△2
長期借入れによる収入	—	500
長期借入金の返済による支出	△21	△522
自己株式の取得による支出	△2	△3
自己株式の処分による収入	0	—
配当金の支払額	△26	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	△53	△45
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,111	△96
現金及び現金同等物の期首残高	2,302	2,308
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,191	2,212

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	空調関連事業 (百万円)	サーモデバイ ス事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	5,771	2,423	2,229	10,424	—	10,424
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	341	—	140	482	(482)	—
計	6,113	2,423	2,370	10,907	(482)	10,424
営業利益又は営業損失(△)	△26	111	△87	△1	8	6

(注) 1 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

◎空調関連事業……………ファンコイルユニット、エアハンドリングユニット、ボイラー、バーナー、  
循環温浴器、空気清浄機等

◎サーモデバイス事業……………液晶表示装置(LCD)製造用の熱処理炉等

◎その他の事業……………景観製品、空調設備工事、各種鋳物製品等

3 会計処理の変更

第1四半期連結会計期間から、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準委員会 平成18年7  
月5日 企業会計基準第9号)を適用しております。

これによる各セグメントの損益に与える影響額は軽微であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	空調関連事業 (百万円)	サーモデバイ ス事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	5,080	1,135	1,443	7,659	—	7,659
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	152	—	111	263	(263)	—
計	5,232	1,135	1,554	7,923	(263)	7,659
営業損失(△)	△144	△169	△246	△560	8	△551

(注) 1 事業区分は内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な製品

◎空調関連事業……………ファンコイルユニット、エアハンドリングユニット、ボイラー、バーナー、  
循環温浴器、空気清浄機等

◎サーモデバイス事業……………液晶表示装置(LCD)製造用の熱処理炉等

◎その他の事業……………景観製品、空調設備工事、各種鋳物製品等

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

全セグメントの売上高の合計に占める日本の割合が90%を超えているため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	アジア	計
I 海外売上高(百万円)	2,249	2,249
II 連結売上高(百万円)		10,424
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	21.6	21.6

- (注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。  
 2 区分に属する国又は地域  
 アジア ……中国、台湾、韓国  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

	アジア	計
I 海外売上高(百万円)	799	799
II 連結売上高(百万円)		7,659
III 連結売上高に占める海外売上高の割合(%)	10.4	10.4

- (注) 1 国又は地域は、地理的近接度により区分しております。  
 2 区分に属する国又は地域  
 アジア ……中国、台湾、韓国  
 3 海外売上高は、当社及び連結子会社の本邦以外の国又は地域における売上高であります。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期連結累計期間において、四半期純損失を1,502百万円計上したこと等により、利益剰余金が1,520百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が△355百万円となっております。